

みなみ

R2年度 竜王南小学校便り No. 5

2020. 7. 20 発行

甲斐市立竜王南小学校



学校教育目標

「楽しい学校（楽校）の創造」

— やる気 こん気 げん気 —

うれしい 朝のあいさつ！

今年の児童会活動のテーマは、「目指せ 三賞☆（笑学校！ 昇学校！ 正学校！）」です。

「笑学校」…笑顔あふれる笑学校

「昇学校」…全校でレベルアップできる学校

「正学校」…規則正しい正学校



3つの「しょう」を合わせて「三賞」とし全校で取り組むことになりました。早速7月には、「あいさつのレベルアップをしよう」ということで児童会を中心に「あいさつ運動」が始まりました。目指すレベルは「目を見てあいさつができる」ことです。先日は、児童会のメンバー数名が、登校してくる仲間にあいさつをしていました。どんなあいさつが気持ちよいか訪ねると「『目を見て、大きな声』のあいさつが良いです」という答えでした。6月から1週間おきに西側児童玄関に立っていますが、気持ちよいあいさつをする子がたくさん増えてとてもうれしいです。目標レベルの「目を見て」はもちろんですが、「大きな声で」「帽子をとって」「立ち止まって」「お辞儀をして」など、大人顔負けのあいさつができる子を見かけるようになりました。このようなあいさつには、だれでも清々しい気持ちになります。まだ恥ずかしくてあいさつができない人もいますが、少しずつレベルを上げていけると良いです。南小学校には「当たり前10か条」があります。学校の色々な場所にこの10か条が掲示してあります。その一行目にはこう書いてあります。

「当たり前10か条」の1行目「当たり前10か条」

「当たり前10か条」の1行目は「自分からあいさつする」が掲げられています。「日本一あいさつができる学校」にもチャレンジしていきたいですね。

「山梨県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」について

山梨県では、上記の条例が施行され、令和2年10月1日から自転車保険への加入が義務化されます。加入義務者は「自転車利用者」「自転車を利用する未成年者を監護する保護者（児童・生徒等の保護者）」が含まれます。詳しくは県のホームページでご確認ください。

通信票『あゆみ』が大きく変わります

令和2年度の1学期は、コロナウイルス感染症予防のために、5月下旬からとなり、「新しい生活様式」による学校生活が始まりました。そのような渦中ですが、令和2年度は、⁽¹⁾新学習指導要領要領が全面実施となる年度であり、竜王南小学校でも、昨年度より新しい教育課程の編成の準備を進め、令和2年度を迎えたところです。そこで、なぜ通信表「あゆみ」が変わるのかというと、基準である学習指導要領が全面的に改訂されたからです。通信表「あゆみ」の話の前に、どんな改訂が行われたのかをまずはお伝えします。

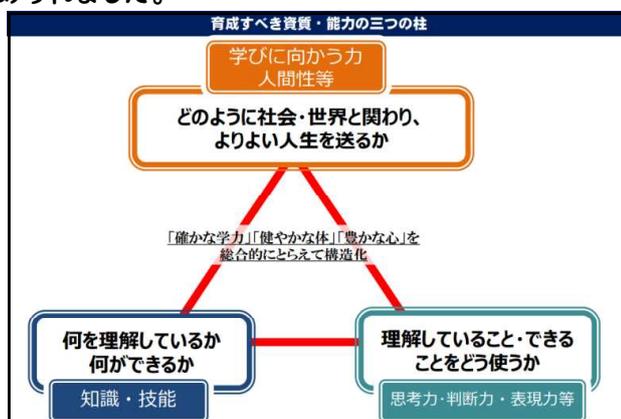
□改訂で求められるもの

⁽²⁾予測困難な変化の激しい時代⁽²⁾になっても、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現するために、学校と家族・地域が一体となり、一人一人の子どもたちに「生きる力」を育てていくことが今回の改訂には求められています。「学校での学び」が、自らの人生や未来の社会につながる学びになることが強く示されています。

□新しい学習指導要領で目指すこと

新しい時代を生きる子どもたちに必要な資質・能力の育成を目指します。この資質・能力が、下に図示する三つの柱で整理されました。そして全ての教科がこの三つの観点に基づいて目標が定められました。

これまでは、右図に示された【知識・技能】に重きが置かれ、指導者が指導内容を適切にまた効率よく教えるという【知識・技能】の伝達・確認・習熟型の授業も多くありました。新学習指導要領では、今回初めて「どのように学ぶか」と



⁽³⁾いう学び方⁽³⁾についての言及が行われました。私たち教職員は、「子どもたちが、初めて出会った課題に対して、これまでの生活体験や【知識・技能】をもとに、自ら考え、判断し、自分の考えを持ち、他者と交流しながら学びを深めていく。」そんな授業改善を行っていきます。これは、子どもたちが実社会に出て、未知の状況に出会ったときに必要な資質・能力を育成するために行われるものです。

これにより「あゆみ」の評価を、これまでの「単元別」から「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む力（学びに向かう力・人間性）」の三つの観点に基づいて行っていきます。詳細については、今後「あゆみ」に掲載しますのでご確認下さい。

(1)全国どこの学校でも一定の教育水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程の基準です。およそ10年に一度、改訂しています。子供たちの教科書や時間割は、これを基に作られています。

(2)すでに現在は、society 5.0と言われる超スマート社会を迎えています。この変化の激しい未知の時代は正解ではなく、他者と協働しながら、納得解や最適解を導き出す力が必要と言われています。

(3)「主体的・対話的で深い学び」という学び方です。